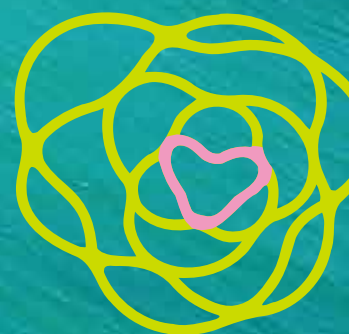


2021 vol. 25

こころの未来

KOKORO RESEARCH CENTER
KYOTO UNIVERSITY

特集
開かれる和のこころ



ごあいさつ

和のこころの特徴は、花にしろ、おもてなしにしろ、相手あってのもので、相手が中心になっている。だから和のこころは常に開かれたものである。本号特集「開かれる和のこころ」の対談での笹岡隆甫氏の「花は師匠です」や、前田昌弘氏の論考での「環境もまた人間と同様に主体である」ということばは、人間主体からはじまるのでないこころを捉えている。しかも西洋の実体でなくて、移ろいやすく、死や消滅を含んでいるというのも和のこころの特徴で美しい。それが西洋の主体としてのこころに開かれていくのを研究するのは1つの課題であろう。また心理療法に携わっていると、こころの古層がなぜか強く残っているのが日本の特徴であると気づかされる。巻頭言で東儀秀樹氏が大陸の雅楽が唯一日本だけで残っているというのには臨床家としてうなずける。その意味で、先史時代のこころが日本にどのように伝播したのかという入来篤史氏のプロジェクトにも期待したい。

2021年10月

京都大学こころの未来研究センター長 河合俊雄

こころの未来
KOKORO RESEARCH CENTER
KYOTO UNIVERSITY

2021 vol. 25

目次

ごあいさつ	河合俊雄
01 巻頭言 日本人の誇りと責任	東儀秀樹
〈特集 開かれる和のこころ〉	
02 対談 開かれる和の伝統	笹岡隆甫+内田由紀子
論考	
10 北米文化との比較でわかる日本文化の「ものの見方」	増田貴彦
14 日本の企業組織の国際化はどこまで可能か	関口倫紀
18 おもてなしの未来	鈴木智子
22 環境と協同し、住まいを開く	前田昌弘
センター特任教授寄稿	
26 サピエンスの「こころ」——文明の錦を機織る経糸と緯糸	入来篤史
プロジェクト	
30 プロジェクト一覧（2020年度）	
31 持続可能な医療・社会保障に関する研究	広井良典
32 組織文化とこころのあり方——日本における企業調査	内田由紀子+中山真孝
33 セルフの進化生物学	小村 豊
34 現代社会における〈毒〉の重要性	吉岡 洋
35 Savoringの科学	柳澤邦昭+阿部修士
36 こころワールドマップの作成	上田祥行
37 こころが豊かになる環境の選択と構築と共感の心理	上田祥行
38 こころの豊かさとその逆説性——心理療法にみられるこころの変化とその波及	河合俊雄
39 気晴らしと攻撃性のメカニズム	河合俊雄
40 高齢者の幸福感と健康に関する心理・神経科学アプローチ	中井隆介
41 シンギュラリティ後の生活者のこころのあり方について	広井良典+熊谷誠慈
42 つながり・共生のメカニズムとこころの豊かさ	内田由紀子+竹村幸祐+福島慎太郎+打田篤彦
43 感動の社会・神経基盤の研究、および行動変容に及ぼす効果の検証	中山真孝+内田由紀子
44 アジアと日本の精神性、幸福観、倫理観	熊谷誠慈
45 超高齢社会における現代日本の医療・保健・福祉にかかる倫理	清家 理
46 ポスト成長時代におけるこころの問題と変容	畑中千紘
47 ポスト成長時代の経済・倫理・幸福	広井良典
48 意思決定の認知科学	阿部修士
49 こころを込めることの認知的・身体的効果	熊谷誠慈+上田祥行
50 空間的思考の認知メカニズム	武藤拓之
51 子どもの発達障害へのプレイセラピー	河合俊雄
52 鎮守の森とコミュニティ経済	広井良典
53 SNSカウンセリングとコミュニティ支援	河合俊雄
54 京都こころ会議	河合俊雄
55 こころの研究に関する国際発信プロジェクト	内田由紀子
56 発達障害の認知機能障害と、心理社会的要因・身体環境的要因との関連の検討	後藤幸織+小川詩乃
57 ケアの認知心理学	布井雅人
58 腸内フローラ移植による身体症状の改善と心理的变化について	城谷仁美
59 こころに関する可視化情報の有用性の探索と予防教育への応用	加藤奈奈子
60 センターの主な動向（2020年4月～2020年9月）	
編集後記	

編集後記

文化と心の広がりについて様々な視点から考えてみようという企画を練りました。素晴らしい方々にご参加いただくことができ、読み応えがあるものとなりました。コロナ禍で「閉じる」ことを余儀なくされている今だからこそ、「開く」ことの意義を感じます。(内田由紀子)

日本は高度成長期を中心に伝統文化が半ば切断されたので、私たちはあたかも文化人類学者のような視点でそれらを再発見している面がある。また日本神話の起源の一部が中国や東南アジアにあることなど、アジアとの様々な関わりにも注目したい。(広井良典)

「和」とは日本のことにとどまらず、近代文明が見落としてきた世界観を暗示する言葉だと思う。それこそが「開かれる」べきものだろう。(吉岡 洋)

今号から編集に関わった。対象の変化を大切に、空間と時間に注目するいけばなの価値観と、背景情報に注目しがちという日本人の行動が繋がるのが興味深い。様々な伝統知を追うことで、コンテキストへの注目度合いだけでない和のこころも見えるだろうか。(上田祥行)

「和のこころ」の重視だけにこだわっていると、より「開かれた」視点で文化を捉え直す機会を失い、文化は停滞する。では、どんなふうに「開かれた」視点を持てばいいのか。今回の特集には多くのヒントが詰まっているはずだ。(原 章)

発行日 2021年10月29日

発行 京都大学こころの未来研究センター
〒606-8501
京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学稲盛財団記念館内
電話 075-753-9670 FAX 075-753-9680
<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/>

編集委員 広井良典 + 吉岡 洋 + 内田由紀子 + 上田祥行

表紙写真 高知県 柏島の風景(ドローン空撮、2019-04-27撮影)
©いっちー / PIXTA

編集・制作 編集工房レイヴン 原 章

デザイン 鷺草デザイン事務所 尾崎閑也 + 東 浩美

印刷 株式会社 NPC コーポレーション



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER · KYOTO UNIVERSITY

こころの未来研究センター

